名前: 鍋田智広 (なべた ともひろ)
所属: 北陸先端科学技術大学院大学
大学院教育イニシアティブセンター
知識科学研究科
E-mail: nabeta(at)jaist.ac.jp
専門分野: 認知心理学，発達心理学，認知科学

[学歴]
2004 年 3 月 広島大学教育学研究科博士課程前期修了
2007 年 3 月 広島大学教育学研究科博士課程後期修了 博士(心理学)

[職歴]
2004年4月 - 2007年2月 広島大学教育学部 ティーチング・アシスタント
2005年4月 - 2007年3月 日本学術振興会特別研究員DC2 (広島大学)
2007年4月 - 2010年3月 日本学術振興会特別研究員PD (京都大学)
2009 年 4 月 - 2010 年 3 月 阪南大学 非常勤講師
2009 年 4 月 - 2010 年 3 月 広島修道大学 非常勤講師
2009 年 4 月 - 2010 年 3 月 京都文教大学 非常勤講師
2010 年 4 月 - 北陸先端科学技術大学院大学 大学院教育イニシアティブセンター 特任助教
2010 年 5 月 - 北陸先端科学技術大学院大学 知識科学研究科 特任助教

[研究業績]
査読論文
1. Nabeta, T., Ono, F., and Kawahara, J. (2003). Visual spatial contexts transfer to haptic search. *The Japanese Journal of Psychonomic Science*, **22,** 35-36.
2. Nabeta, T., Ono, F., and Kawahara, J. (2003). Transfer of spatial context from visual to haptic search. *Perception,* **32**, 1351-1358.
3. 小野史典・鍋田智広・河原純一郎 (2004). 視覚的印付けされた刺激配置は文脈手がかりとなりうるか？ *心理学研究.*
4. Nabeta, T. and Kawahara, J. (2004). Haptic false memory and modality congruency effect. *The Japanese Journal of Psychonomic Science*, **23**, 97-98.
5. Nabeta, T., Kawahara, J., and Chujo, K. (2005). The effect of study-phase length on auditory false recognition. *The Japanese Journal of Psychonomic Science* (in English)
6. Nabeta, T. and Kawahara, J. (2006). Congruency effect of presentation modality on haptic and visual false memory of real objects. *Memory*, **14**, 307-315.
7. Nabeta, T. and Kawahara, J. (2006). Reduction of false recognition through haptic

presentation of objects. *The European Journal of Cognitive Psychology*, **18**, 801-812.

8. Kawahara, J., Nabeta, T., and Hamada, J. (2007). Area-specific attentional effect in the Delboeuf illusion. *Perception*, **36**, 670-685.
9. 鍋田智広･目久田純一･神垣彬子･松井剛太･朴信永･山崎晃 (2008). 幼児の連想的虚偽記憶における意味的知識の発達. *心理学研究*, **78**, 591-598.
10. 山田恭子・鍋田智広・岡かおり・中條和光 (2009). 虚再認の生起に及ぼす環境的文脈の効果. *心理学研究*, **80**, 83-97.
11. 鍋田智広・楠見孝 (2009). Deese-Roediger-McDermott (DRM)手続きを用いた虚偽記憶研究− 虚偽記憶の発生過程と主観的想起経験− . *心理学評論*, **52**, 545-575.

学会発表(国際学会，口頭発表)

1. Ono, F., Nabeta, T., and Kawahara, J. (2002 21 November). Contextual cueing and visual marking: Are the marked items encoded? Annual conference of Object Perception and Memory. Kansas City.
2. Nabeta, T., Kawahara J., Ono F., and Chujo, K. (2003 November). Haptic false memory and modality effect. Tactile Research Group. Vancouver.
3. Nabeta, T. (2007 5 December). Can young children reduce false recognition? International Symposium on Executive Function in the Mind. Kyoto.
4. Nabeta, T., Yamada, K., Omoto, S., and Chujo, K. (2009 July 28). False memory occurs as an episodic memory: Context dependent effect of false recognition in DRM procedure. The 8th biennial meeting of the society for applied research in memory and cognition (SARMAC). Kyoto.

学会発表(国際学会，ポスター発表)

1. Nabeta, T. and Kawahara, J. (2003). Spatial contexts transfer from visual to haptic search. 44th Annual Meeting of the Psychonomic Society. Vancouver, November 9.
2. Nabeta, T. and Kawahara, J. (2005). Haptic false recognition and modality congruency effect. 6th Tsukuba International Conference on Memory, Tsukuba, 2005, March 14.
3. Nabeta, T., Okada, K., and Kawahara, J. (2005). Congruency effect of presentation modality on haptic, visual, and auditory false memory. 46th Annual Meeting of the Psychonomic Society. Tront.
4. Nabeta, T. and Kusumi, T. (2007). Haptic memory capacity. 48th Annual Meeting of the Psychonomic Society. Long Beach. 16 November.
5. Nabeta, T. and Kusumi, T. (2008). Haptic memory capacity for 500 common objects.

European Conference on Visual Perception 2008. Utrecht. 26 August.

6. Nabeta, T. (2009). Context-dependent effect of false memory. 50th Annual Meeting of the Psychonomic Society. Boston, 21, Nov.

学会発表(国内学会，口頭発表)

1. 鍋田智広･河原純一郎 (2003). 視覚的文脈は触覚探索に転移するか？ 日本心理学会注意と認知研究会. 2 月 21 日
2. 河原純一郎･田中徹･鍋田智広･井口清 (2006). 道路交通場面における注意範囲のメタ認知とその年齢間比較. 日本認知心理学会 4 回大会. 8 月 1 日(中京大学), 発表論文集 pp.10.
3. 鍋田智広･神垣彬子･目久田純一･松井剛太･朴信永･山崎晃 (2007). 記憶課題実施の時間帯が幼児の虚偽記憶に及ぼす影響. 日本認知心理学会 5 回大会 (京都大学). 5 月 26 日. 発表論文集 pp.2
4. 鍋田智広 (2007). 触覚・視覚・聴覚モダリティに固有の記憶が虚再認に及ぼす影響. 日本心理学会第 71 回大会(小講演) 東洋大学(9 月 18 日).
5. 鍋田智広・楠見孝 (2008). 触覚の記憶容量とそのメタ記憶: 日用品 500 個を用いた検討 日本認知心理学会 6 回大会. 千葉大学, 5 月 31 日. Pp.13.

学会発表(国内学会，ポスター発表)

1. 鍋田智広･小野史典･河原純一郎 (2002). 視覚的文脈は触覚探索に転移するか？ 日本基礎心理学会21回大会. 11月16日(千葉大学)
2. 鍋田智広･河原純一郎 (2003). 聴覚的虚偽記憶に保持期間が及ぼす影響. 日本心理学会67回大会.9月14日(東京大学), pp.835.
3. 鍋田智広･河原純一郎 (2003). お弁当持った?-触覚における虚偽記憶とモダリティ効果- 日本基礎心理学会22回大会.10月31日(筑波大学)
4. 鍋田智広･河原純一郎 (2004). 触覚および聴覚における虚再認とモダリティ一致効果 日本基礎心理学会23回大会.11月26日(新潟大学)
5. 鍋田智広･迫健介･河原純一郎 (2005). 触覚記憶の想起に及ぼす視覚画像の意味的干渉効果 日本心理学会69回大会.(慶應義塾大学), pp.747.
6. 鍋田智広･濱田治良･河原純一郎 (2005). Delboeuf錯視の判断順序効果に及ぼす知覚的構えの影響 日本基礎心理学会24回大会. 12月3日 (立教大学)
7. 神垣彬子･鍋田智広･若林紀乃･朴信永･山崎晃 (2006). カテゴリーの群化による幼児の虚偽記憶 日本発達心理学会第17回大会. 3月20日(九州大学), pp.236.
8. 鍋田智広･河原純一郎 (2006). 際立つ違いは聴覚的虚再認を減らす 日本基礎心理学会第25回大会. 6月9日(広島大学)

9. 鍋田智広･若林紀乃･朴信永･神垣彬子･山崎晃 (2006). 学習リストの意味的関連性が虚偽記憶の発達的変化に及ぼす影響. 日本認知心理学会4回大会. 8月2日(中京大学), pp.136.
10. 鍋田智広･田中徹･井口清･河原純一郎 (2006). 見落としデモンストレーションが道路交通場面における注意範囲のメタ認知変容に及ぼす効果. 日本心理学会第70会大会.11月4日(福岡国際会議場), pp.1343.
11. 鍋田智広･神垣彬子･若林紀乃･朴信永･山崎晃 (2007). 幼児の勘違いを抑制するにはどうしたらよいか? 日本発達心理学会第18回大会. 3月26日. (埼玉大学), pp.627.
12. 山田恭子･鍋田智広･緒本翔平･中條和光 (2007). いつもの場面で勘違いは起きる ―背景文脈の一致が虚再認に与える影響― 日本認知心理学会5回大会. 5月27日. (京都大学), pp.176.
13. 鍋田智広 (2007). 片仮名と平仮名の筆記が虚偽記憶に及ぼす影響 日本心理学会 9月20日 (東洋大学), pp.825.
14. 鍋田智広・目久田純一・神垣彬子・松井剛太・朴信永・山崎晃 (2008). 幼児独自の知識構造が連想的な記憶に与える影響―虚偽記憶課題を用いた検討― 日本発達心理学会第19回大会. 3月19日. (追手門学院大学), pp.297.
15. 鍋田智広・楠見孝 (2008). 触覚記憶の記憶容量: 日用品500 個の再認検査による検討 日本心理学会72回大会. 9月19日. (北海道大学), pp.873.
16. 鍋田智広・川岸久也 (2009). 自閉症児の意味的虚偽記憶 日本発達心理学会第20回大会. 3月23日. (日本女子大学) (第二十回発表論文集, pp. 99)
17. 鍋田智広 (2009). 虚偽記憶の発生にはルアー語の活性化は伴わない –幼児を対象としたカテゴリリストのプライミングの検討- 日本心理学会第73回大会. 8月26日 (立命館大学).発表論文集 pp.855.
18. 神垣彬子・鍋田智広 (2009). クロスモダルを用いた幼児の空間的表象の検討 日本心理学会第73回大会. 8月28日 (立命館大学).pp.796.

[紀要など]

1. 鍋田智広 (2006). 学習リストの繰り返し呈示が画像の虚再認に与える効果. *広島大学心理学研究,* **6**, 11-18.

[受賞歴]

1. 2002 日本基礎心理学会優秀発表賞 (小野史典･河原純一郎との連名発表)
2. 2003 日本基礎心理学会優秀発表賞 (河原純一郎との連名発表)
3. 2006 日本認知心理学会優秀発表賞 (総合性評価部門) (河原純一郎・田中徹・井口清との連名発表)

4. 2008 日本心理学会優秀論文賞 (鍋田智広･目久田純一･神垣彬子･松井剛太･朴信永･山崎晃 幼児の連想的虚偽記憶における意味的知識の発達. 心理学研究 78 巻 6 号)

[加入学会]
日本基礎心理学会
日本心理学会
日本認知心理学会
日本発達心理学会
日本教育心理学会
Psychonomic Society (Associate member)